

学校の廊下や教室の掲示物の中に、卒業や進級まで「あと〇日」という掲示が見られる時期になりました。卒業生にとっては「別れ」を意識し始める時期でもあります。残された一日一日の子どもとの触れ合いを大切にしながら、子どもたちが1年間の歩みを、充実感をもって振り返られるようにしたいものです。



<小学校>

注意が持続できにくい子どもは
見つかりにくい!?

□目立つタイプのAさん

- ・授業に集中できず、出歩いてしまう。
- ・勝手にしゃべり出してしまう。
- ・乱暴さが目立ってしまう。



◇見過ごされがちなBさん

- ・自分から話しかけたり、行動したりするのは苦手。
- ・忘れ物をしたり、物をなくしたりすることがよくある。
- ・なかなか決断できず、もじもじしている。



Bさんのように、注意が持続できにくく、不注意さがあるけれど、衝動的ではないため見過ごされてしまう子がいます。

~Bさんに対する支援~

「会話の仲立ちを行う」「活動時間を確保する」「選択肢を示す」等
教師が一人一人の実態を見返し、適切な支援を届けましょう。

1年の終わりだからこそ…
「サークル対話」を
始めてみませんか…

□「学び」を今よりちょっと

子どもたちにゆだねるきっかけに!

- ・朝の会や帰りの会で、少人数で円をつくり、子ども同士で対話をする時間を確保しましょう。

□全員が安心して対話することができる約束を!

- ・例えば、次のような約束が考えられます。
①相手を傾聴する。②否定しない・質問しない。
③無理に発言しなくてもよい。等

□本音を引き出すひと工夫を!

- ・「あなたの心は何色?」「色を選んだ理由を語ってください」というように、色(色紙)を介することで、子どもが本音を思わず語るようになります。 ※色の見え方は人それぞれですので配慮も必要です。

□年度末に向けて、将来や夢についての対話を!

- ・「あなたの夢は? どうしてその夢を抱くの?」
・「どんな大人になりたい?」等

<中学校>

今だからこそ、短学活の一工夫を

中学校では、短学活が、学級づくりのポイント。ちょっとした工夫で子どもたちが活躍する場面がつけられます。

◎日直が形式的な司会をするだけになっていませんか。

◆連絡も日直から

その日の予定と連絡は、担任がメモをつくり、日直から一言加えて伝達するようにすると、お互いに話を聞く姿勢が生まれます。

◆一日の目標を日直が決める

その日の予定やクラスの様子から、一日の目標を決めるようにするのもよいでしょう

◆学級日誌を活用

前日の日直が書いた振り返りと担任のコメントを朝の会で日直が読むと、前日の振り返りが位置付きます。

◎日直をその日のクラスのリーダーとして位置付け、活躍の場面を短学活に設けることで、自律的な子どもを育てることにつながります。



「それ今言っちゃう?!」と思われる生徒は
会話の練習が必要な生徒かも…

このような生徒はいませんか?

□そっと教えてくれたことを大きな声で言う

「◇◇さんの好きな人って〇〇さんなんだ!!」

□相手の都合を考える前に自分の都合を優先する

「体育館入場? 私は図書館に行きたいから無理!!」

□指示されたことをすぐ聞き返す

「え? 準備室から? 何を持ってくるの? 今?」



これらの姿の要因として、相手の気持ちを想像しにくかったり、自分の言動をコントロールする力が弱かったりすることが考えられます。

生徒と一緒に考え練習してみましょう。

☆相手の声と同じ大きさと試してみよう。

☆一度呼吸をしてから試してみよう。

☆相手の方を見て話を聞いてみよう。



生徒の状況に応じて、このような具体的な場面を設定し練習することが有効です。